

少人数教育の充実に向けた取組

【県中教育事務所】

| | |
|--------|------------|
| 学 校 名 | 郡山市立橋小学校 |
| 学年・教科等 | 第3学年1組・算数科 |

確かな教材研究と児童理解による授業の充実

取組の内容

- ◎ 授業の一場面から
- 問題

木と木の間はすべて3mです。

- ① まっすぐな道に沿って5本の木が植えてあります。5本目まで歩くと何m歩きますか。
- ② 丸い形の池の周りに5本の木が植えてあります。この池の周りを1周すると、何m歩きますか。

- この2問を同時に提示し、学級の半数ずつに取り組みさせた。3人1組のグループ活動によって自力解決を行った後、①の問題の解答について全体での練り上げのなかで、多くの班が、「 $3 \times 4 = 12$ 12m」と解答していたが、A班では「 $3 \times 5 = 15$ 15m」と解答していた。
T： A班の答えは、みんなのと違っていますが、どんな考えですか？（誤答を取り上げ…）
C1： 他の班の考えが正しいので、ぼくたちは説明しなくていいと思います。（間違えを認めている）
C2： その気持ち分かります。（近くの班の子どもたち）
T： どんな気持ちだと思うのですか？
C2： みんなの考えを聞いているうちに、間違いに気付いたので、説明しなくてもいいと考えていると思います。
T： 自分たちの間違いに気付けたということですね。すばらしいですね。だったらなおさら、どのように気付いたのかをみんなに説明してください。きっとみんなのためになりますから。
この後A班の子どもたちは3人で協力して、最初の考えと友だちの発表を聞き、変更した考えについて全体に説明した。所々で教師が「問い返し」をするなどして、子ども同士が学び合う場が保障され、本時のねらいが達成された授業となった。

成果と課題

- 成果について
 - ・ グループ学習の充実と教師の確かな児童理解
3人でグループ学習の間、教師は丁寧に机間指導を行うことができる。児童たちが、どのように考えて自力解決したのか、どのような点でつまづいているのかについて、的確に把握したり意図的にかかわったりすることによって、授業の展開をより効果的なものにする事ができた。
 - ・ 教材研究の充実
本校では、低・中・高学年ごとのブロックで教員同士が研究をするため、学びの特質に寄り添い、互いに協働しながら教材研究に当たることができる。このため、子どもたちのつまづきがどのようなものであっても、教師は受け止め、それを授業の中で生かすことができていた。
 - ・ 認め合う雰囲気醸成
この学級には、間違った答えを出した子どもの気持ちが分かる仲間がいる。そして、そのことを声に出して言える雰囲気がある。普段から、教師が誤答を授業の中で効果的に生かすなどして、子どもの考えを大切に扱うモデルを示している。子どもたちは互いの考えを認め合い、自己有用感が高まることによって、自分の学びや伸びを実感でき、学習内容の定着が図られていると言える。
- 課題について
 - ・ 今後も、グループ学習において、リーダーとして活躍する子ども、リーダーの意見を頼りにしてしまう子どもが固定化しないように、児童理解の在り方について、ブロックの教師同士がさらに協働しながら研修を積んでいく必要がある。